

岸和田市
交通まちづくりアクションプラン
〔総合交通戦略編〕

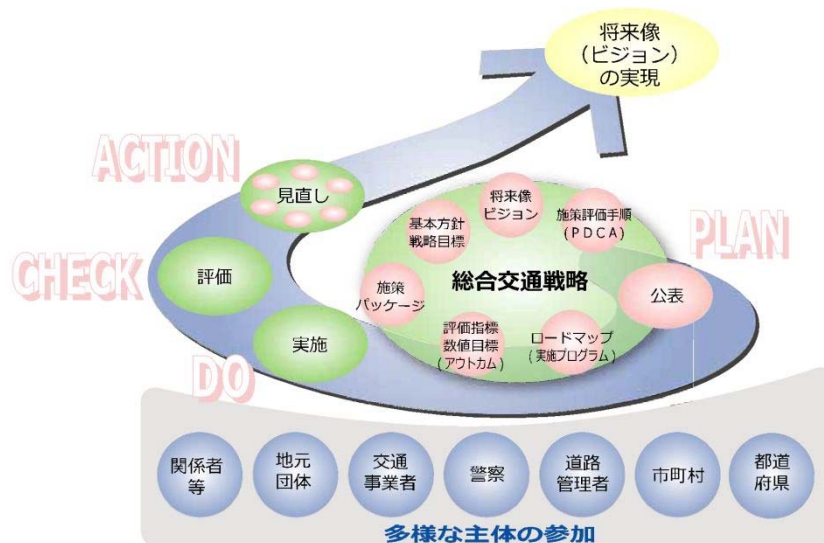
将来都市像と戦略目標の設定

1. 交通まちづくりアクションプラン『総合交通戦略編』について

1.1 総合交通戦略とは

進展する少子・超高齢社会への対応、交通渋滞の緩和、交通に起因する環境負荷の低減等のため、過度に自家用車利用に依存することなく、徒歩、自転車、公共交通等の各モードが連携し適切な役割分担のもと、望ましい都市・地域像の実現を図る観点から、地方公共団体を中心として、関係機関・団体等が相互に協力し、都市・地域が抱える多様な課題に対応すべく、交通事業とまちづくりが連携した総合的かつ戦略的な交通施策の推進を図るものであり、もって魅力と活力があふれる都市・地域の整備を行うことを目的としています。

資料：都市・地域総合交通戦略要綱（平成 21 年 3 月 16 日、国土交通省都市・地域整備局長）に基づく



出典：都市・地域総合交通戦略のすすめ【総合交通戦略策定の手引き】（国土交通省都市局 平成 26 年 8 月）

図 1-1 総合交通戦略の取り組みのイメージ

1.2 総合交通戦略の位置付け

岸和田市交通まちづくりアクションプラン『総合交通戦略編』は、「基本計画編」で定めた基本理念「元気に生活・活動し、安全・快適に移動ができる交通インフラの形成」の実現を目指すため、徒歩、自転車、自動車、公共交通の適正分担を図り、「望ましい都市・地域像の実現」を実現するマスタープランとして、とりまとめたものです。

岸和田市における交通体系の現状・問題点、課題の整理を踏まえて、都市・地域が目指す総合的な交通の姿を実現するために、交通施策の展開方針、そして、行政、市民、交通事業者の役割について定めています。

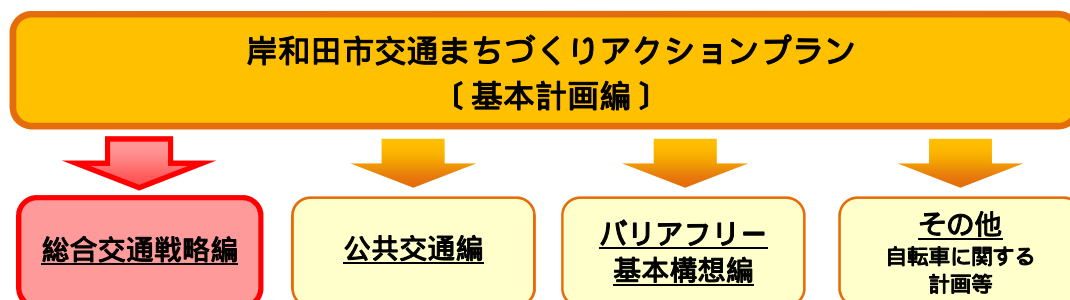


図 1-2 岸和田市交通まちづくりアクションプランの構成

*印の付いている用語は、巻末の「用語集」に説明を記載しています。

2. 将来都市像の設定

2.1 上位計画におけるまちづくりの将来像について

上位計画である「岸和田市まちづくりビジョン（第4次岸和田市総合計画）」や「岸和田市都市計画マスタープラン【テーマ別まちづくり編】」において、設定されているまちづくりの構想について、以下に示します。

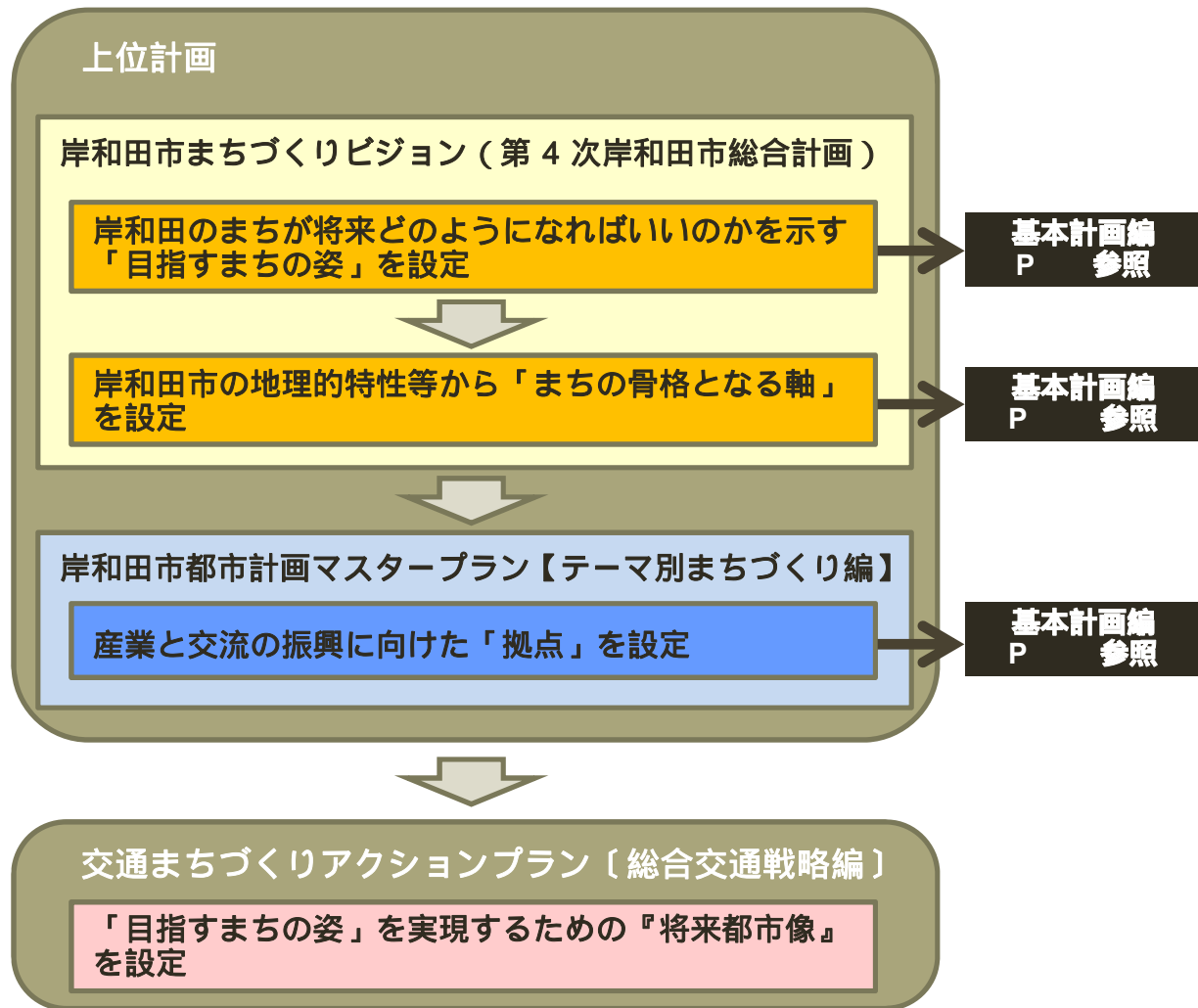


図 2-1 上位計画におけるまちづくりの構想

2.2 『将来都市像』の設定について

上位計画である「岸和田市まちづくりビジョン（第4次岸和田市総合計画）」や「岸和田市都市計画マスタープラン【テーマ別まちづくり編】」において、設定されているまちづくりの構想を踏まえ、総合交通戦略編では、本計画の基本理念「元気に生活・活動し、安全・快適に移動ができる交通インフラの形成」の実現に向けて、都市軸や都市核を担う都市の機能を向上させるため、市民、交通事業者、関係機関、行政が連携を図りながら、だれもが円滑に移動できる交通環境づくりを進めていくものとし、『将来都市像』を以下のように設定します。

都市軸の交流拠点を都市核とし、階層的につなぐ多極集約・ネットワーク型のまちづくり



3. 戦略目標の設定

3.1 将来都市像を実現するための基本的な考え方

将来都市像で設定した多極集約・ネットワーク型のまちづくりを実現するためには、都市交通施策と土地利用施策や市街地整備等と一体となった取組みを実施する必要があります。そのためには、多様な分野で実施する施策間の連携を強化し一致団結して取組みます。

行政と交通事業者、市民等が共通の目標を認識し、官民が連携し、協力しながら必要な施策を総力戦で、かつ、一体的・集中的に進めるため、戦略目標を設定するための基本的な考え方を整理します。

(1) 子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が多様な交通手段で移動しやすい交通環境の構築

山間区域や田園区域、都市区域の各地域特性を踏まえ、公共交通をはじめとした徒歩、自転車及び自家用車等の多様な移動手段による通勤、通学、買物、通院など日常生活上の移動が容易に出来る交通環境が求められます。

子どもをはじめ子育て世代やお年寄りまで誰もが利用しやすい徒歩と公共交通を中心とし、過度に自動車に依存せず安全に移動できる交通環境を目指します。自動車中心であった道路利用については、公共交通やその他の移動手段とのバランスの取れた役割分担を進め、高齢化社会に対応したバリアフリー対策の推進、公共交通サービスの維持・拡充及び歩行者・自転車の通行空間確保などによる交通体系の充実を図ります。

また、交通に対する利用者のマナーや意識向上と一体となり、全市民の誰もが快適に移動できる交通環境を構築するための施策を推進します。

(2) 拠点での回遊性や快適性の向上を図る交通環境づくり

将来都市像における都市拠点等の各役割に応じて、拠点内での回遊性やにぎわいの創出など、拠点にふさわしい都市機能の充実や都市の魅力づくりを支え、また、歩行者や自転車も安全で安心して移動できる交通環境の構築が求められています。

拠点へ快適にアクセスするための交通手段の利便性向上、自動車等による通過交通を抑制し歩きやすい歩行空間の確保及び必要な都市機能が集積した複数の拠点整備により拠点の活性化に寄与する回遊性・快適性の向上を目指します。また、公共交通間を乗継のための移動時間や待ち時間の短縮など公共交通の利用環境の改善も行います。

鉄道駅周辺だけではなく、郊外の主要バス停等における他の交通手段との乗り継ぎ利便性の向上のため地域特性に応じた施策を検討します。

(3) 泉南地域の中心都市としての広域ネットワークの拡充

岸和田市は、泉南地域における経済・文化・行政の中心都市であり、鉄道網では特急や快速の停車駅があり、高規格幹線道路では、複数のインターチェンジがあります。また、都市区域や田園区域に広域幹線道路網があり、広域ネットワークの要衝となっています。

しかし、岸和田市への来訪者や市民の移動に影響がある主要渋滞箇所が存在しているため、現在の交通状況の改善や観光施設等への移動のため広域幹線道路等の整備が必要です。さらに来訪者や市民による公共交通の利用をしやすいするために、公共交通網の拡充や情報提供等の取組みも必要です。

広域における人やモノの流れ及び泉南地域の中心都市として魅力向上を支える交通ネットワークの形成をはじめ、災害発生時にも複数の避難路や緊急輸送路の確保に役立つ交通環境の構築をめざします。

(4) 安心していつまでも住み続けることができるまちづくりの推進

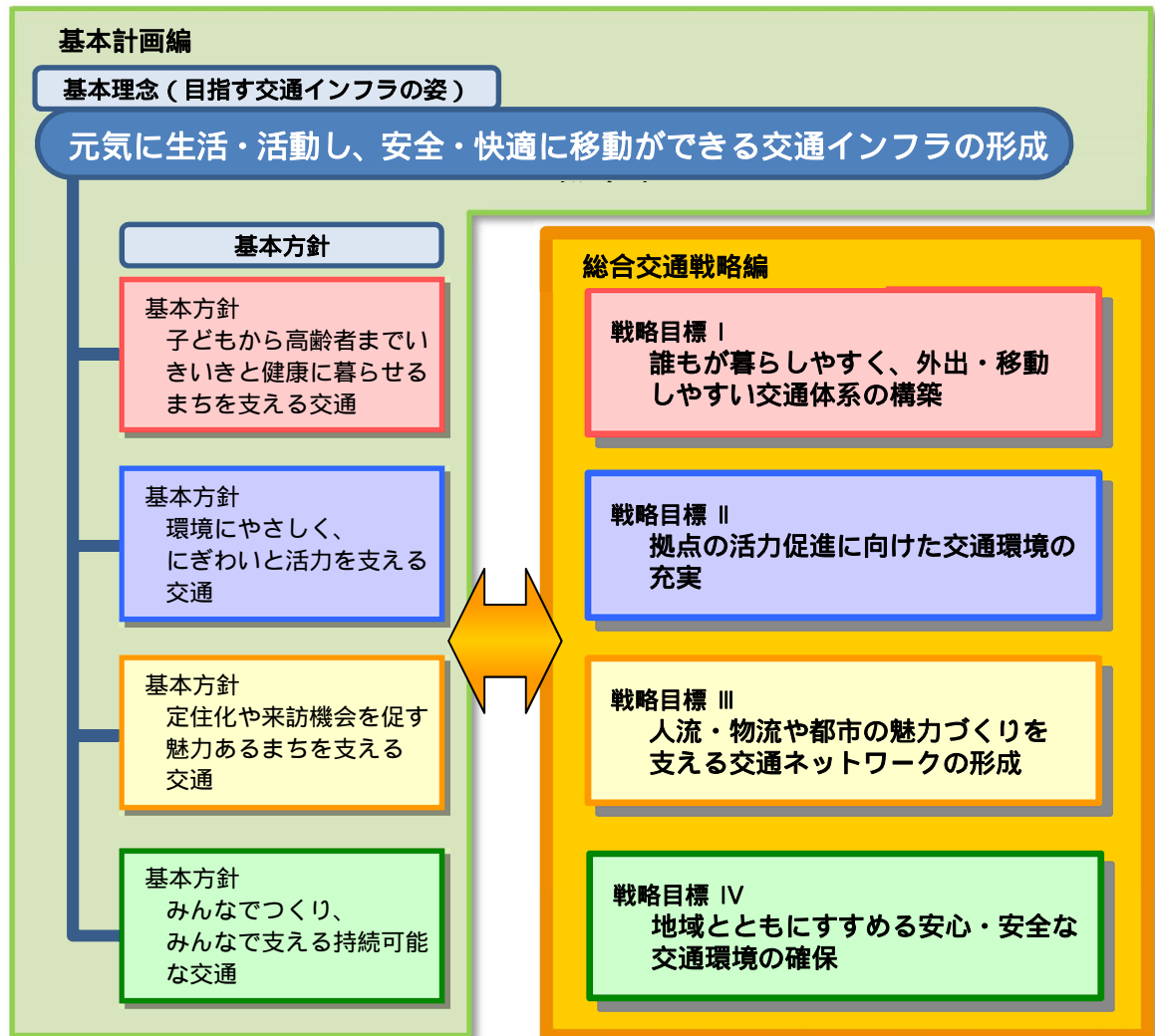
地域主体でまちづくりや交通について地域の人が地域の実情に応じて、地域の人が使いやすい交通環境を考え、実現していくこと重要です。また、日常生活において、子どもから子育て世代やお年寄りまでの全ての方が安全・安心に移動できる交通環境の確保が求められています。

地域主体により、行政と交通事業者と協働して課題解決に向けた取組を進めるためのしくみづくり、生活道路での通行空間の確保、地域住民による通学路での通学児童の見守り活動の推進及び交通規制等による生活道路への通過交通の抑制等交通環境の拡充も求められます。

高齢化の進展に伴い、加齢による身体的理由等で自家用車を利用できなくなるなど、移動手段の選択が限られる市民が増加するものと考えられ、地域主体による新たな地域バス等の導入の支援などにより、交通環境の確保をめざします。

3.2 将来都市像を実現するための戦略目標

基本計画編の基本理念・基本方針や将来都市像を実現するための基本的な考え方を踏まえて、喫緊の課題解決に向け一体的・集中的に取り組む、効果を早期に発現させるため前述で整理した考え方をもとに戦略目標を以下に設定します。



戦略目標Ⅰ (キーワード:階層・レイヤー) 誰もが暮らしやすく、外出・移動しやすい交通体系の構築	
活動と移動の階層構造	近隣圏 都市部・山間部・近隣市町を結ぶ交流ネットワーク
	生活圏 地域内で 回遊性を高める交通ネットワーク
戦略目標を達成するための主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徒歩を中心とした多様な移動手段の選択可能なモビリティの確保。 ・ 多様な移動目的に対応した安心・安全に移動できる自転車・歩行者空間の確保やバリアフリー化された移動空間・交通環境の整備。 ・ 運転免許証を持たない方や自動車を利用できない方も活動的で健康的な生活を促進するために、自動車がなくても生活できる公共交通体系の構築。
施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行者・自転車・自動車等の通行空間の分離やバリアフリー化を推進する。 ・ 幅広い世代の方が外出しやすくするために、各交通モード間の役割分担や連携を強化する。 ・ 交通事故予防のため子どもから高齢者を対象とした交通安全教室の実施を推進する。

戦略目標Ⅱ (キーワード:拠点・ベース) 拠点の活力促進に向けた交通環境の充実	
活動と移動の階層構造	近隣圏 都市部・山間部・近隣市町を結ぶ交流ネットワーク
	生活圏 地域内で 回遊性を高める交通ネットワーク
戦略目標を達成するための主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点へのアクセス改善による自動車交通の円滑化など交通基盤の整備。 ・ 駅周辺の拠点施設等への公共交通によるアクセス性の向上や乗り継ぎ利便性の向上。 ・ 回遊性を高める歩行者優先の交通環境の充実。
施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点となる鉄道駅周辺における高質な公共空間の形成を図る。 ・ 公共交通の利用のしやすさ向上や公共交通相互及び公共交通と他の交通手段との連携強化を図る。 ・ 交通結節点での各交通手段間の乗り継ぎのための公共交通情報の提供を行なう。

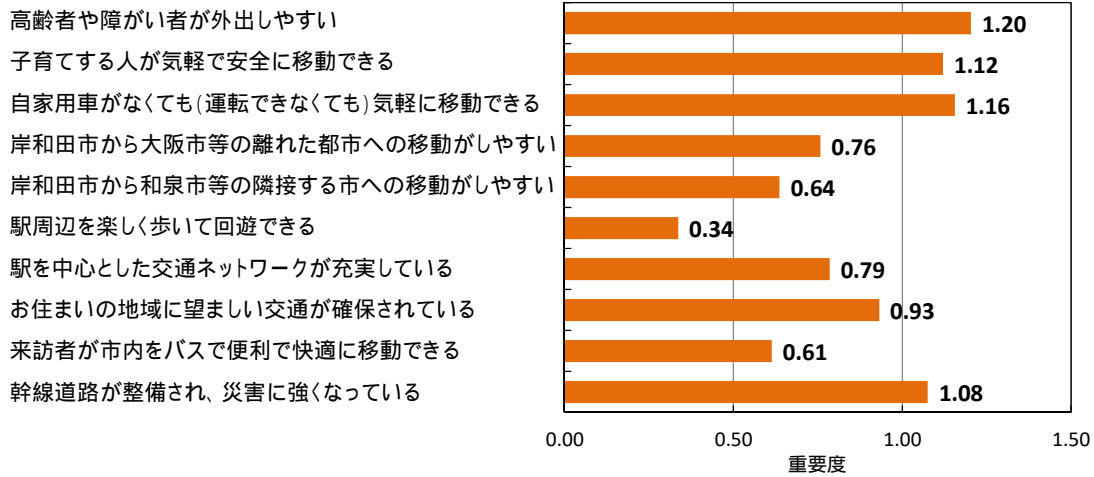
戦略目標Ⅲ (キーワード: 網・ネットワーク) 人流・物流や都市の魅力づくりを支える交通ネットワークの形成	
活動と移動の階層構造	広域圏 南北大阪を繋ぐ広域連携軸
	近隣圏 都市部・山間部・近隣市町を結ぶ交流ネットワーク
戦略目標を達成するための主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域アクセス機能を持つ広域幹線道路や市内拠点間を結ぶ市内幹線道路の整備による交通ネットワークの形成。 ・ 観光客などの来訪者が市内の観光施設等どこにでも移動しやすく分かりやすい公共交通の整備。 ・ 災害時における緊急輸送や避難でのリダンダンシー(多重性)の確保。
施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域圏や近隣圏の交通ネットワークの機能強化を図り、都市間の連携強化、各拠点間のアクセス性の向上、災害時における緊急輸送や救助活動などの応急対策活動の確保を図る。 ・ 交通渋滞の緩和、円滑な自動車移動を図るため、道路網の効率的な整備や交差点改良等を推進する。 ・ 市民や来訪者に分かりやすい公共交通情報を提供する。

戦略目標Ⅳ (キーワード: 地域・リージョン) 地域とともにすすめる安心・安全な交通環境の確保	
活動と移動の階層構造	生活圏 地域内で 回遊性を高める交通ネットワーク
戦略目標を達成するための主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民、交通事業者、行政等が協働で、地域の交通に関する課題に取り組む、社会全体で支え・見守るという共通認識の確立。 ・ 公共交通の利用意識向上や地域にふさわしい公共交通体系の検討。 ・ 子どもから高齢者までが安心して通行が出来る交通環境の充実
施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車から公共交通への転換をはじめ、ハード・ソフト面からまちづくりや交通について考え、協働で取り組みを進めるしくみづくりや取り組みを推進し、市民の健康増進や交流促進につなげる。 ・ 既存の公共交通サービスが十分でない地域では、行政・地域・関係事業者が連携して、地域主導による地域公共交通の導入に向けた検討を進める。 ・ 地域の安全・安心のため交通安全対策や通学路の見守り活動等を推進する。

3.3 戦略目標と市民ニーズとの状況について

岸和田市の交通に関する施策の方向性について、市民公共交通アンケート調査で重要度を調査した結果、以下の ~ の交通に関する施策の方向性の全てにおいて、「重要」という結果になっており、交通に関する施策の方向性を示す戦略目標と市民ニーズが合致していることが分かります。

岸和田市の交通に関する施策の方向性の重要度



「現状の満足度」・「重要度」を以下のとおり点数化し、結果の件数に下記の点数を乗じて満足度・重要度のレベルを算出

【今後の重要度の点数】

- 2点：「1. 重要でない」
- 1点：「2. あまり重要でない」
- 0点：「3. どちらともいえない」
- 1点：「4. やや重要」
- 2点：「5. 重要」

岸和田市の交通に関する施策の方向性の重要度と施策目標の相対関係

		交通に関する施策の方向性											
		高齢者や障がい者が外出しやすい	子育てする人が気軽に安全に移動できる	自家用車がなくても(運転できなくても)気軽に移動できる	岸和田市から大阪市等の離れた都市への移動がしやすい	岸和田市から和泉市等の隣接する市への移動がしやすい	駅周辺を楽しく歩いて回遊できる	駅を中心とした交通ネットワークが充実している	お住まいの地域に望ましい交通が確保されている	来訪者が市内をバスで便利で快適に移動できる	幹線道路が整備され、災害に強くなっている		
戦略目標	I	誰もが暮らしやすく、外出・移動しやすい交通体系の構築											
	II	拠点の活力促進に向けた交通環境の充実											
	III	人流・物流や都市の魅力づくりを支える交通ネットワークの形成											
	IV	地域とともにすすめる安心・安全な交通環境の確保											